

「和歌山大学との連携について」

1. 目的

大学の知的財産をかつらぎ町の現場で活用し、かつらぎ町と大学がともに育ちあう関係の構築を目指す。

かつらぎ町は、大学に交流実践の場及び関係する情報を提供することで学生の人材育成を支援し、大学は、かつらぎ町が行うまちづくり活動に参加・協力するとともに、学術的及びグローバルな視点から、まちづくりに関する情報提供及び助言等を行う。

今後も少子化が進むと予想される中で、学生確保のためにも地域へ大学のアピールを行うことができるのは、大学側にとっても大きなメリットになると考えられる。

2. 目標

①サテライトの誘致（生涯学習の推進）

和歌山大学のサテライトは、和歌山大学の研究・教育機能を活用して、地域づくりに貢献する大学の地域ステーションをめざし、紀南地域（田辺市）、南大阪地域（岸和田市）、和歌山市内の3か所に設置されている。

町内の施設内（総合文化会館や笠田ふるさと交流館など）へ紀北サテライト（仮称）を誘致し、町内のみならず、和歌山大学の保有する高等教育機能を活用して、紀北地域のニーズに対応した諸種の高等教育及び生涯学習・地域連携事業を実施する。

いくつになっても「学びたい」という住民のニーズはあり、学ぶことで生きがいを感じ、自分に誇りを持てるようになる。新しいことに挑戦している人はいつまでも元気な人が多く、元気な高齢者が増えることでまちにも活気が生まれ、ひいては、医療費や介護に係る費用も減らすことができる。

②まちづくりの推進

かつらぎ町の歴史、文化、産業、自然環境などの潜在的な地域の可能性を引き出し、それを教育研究資源として利活用することで、まちづくりに活かしてもらう。

例えば、かつらぎ町が目指す「協働のまちづくり」を実践の場として提供し、学生に参加・協力してもらい「いつまでもこの町に住み続けたい」また「かつらぎ町に住みたい」まちづくりを推進していく。

例. みなべ町地域福祉計画に関する共同研究

美里町における温泉と運動による健康づくりに関する研究 など

③地域経済の活性化

かつらぎ町の特産物である柿の新商品開発や販売戦略の構築など、学生の柔軟なアイデアを活かして地域経済の活性化を推進していく。

例. 和歌山市のぶらくり丁商店街における和歌山大学生のカフェ「Caffe With」
柿を用いた新製品の共同開発研究
熊野古道に相応しいモデル商店のデザイン など

3. 実施にあたっての課題

橋本市なども協定を結んでいるが、あまり活用できていないらしい。今のうちにかつらぎ町へサテライトを誘致し、繋がりをつくることから始めると良いのではないか。

大学との連携は、かつらぎ町がまちづくりを進めていくための手段であり、目的ではない。協連携協定が「絵に描いた餅」とならないよう積極的な取り組みを続けていくことが大事である。